

## 日本気象学会1993年度春季大会の告示

1. 期日：1993年5月17日（月）～19日（水）
2. 会場：気象庁 〒100 東京都千代田区大手町  
1-3-4  
KKR竹橋 〒100 東京都千代田区大手町  
1-4-1
3. 研究発表：
  - 1) 発表は口頭またはポスターによって行う。口頭発表は4会場に分かれて行う。
  - 2) 口頭発表には2種類があり、これらの選択は原則として発表者の希望による（「口頭発表の方法」参照）。
  - 3) ポスター発表は「ポスター・セッションの方法」による。

### 4. 講演申し込み方法：

発表方法にかかわらず、本号末の申込用紙に記入し、予稿集原稿を添えて申し込む。原稿の書き方については767ページの「講演予稿集原稿の書き方」を、申込先・申込期限等については申込用紙をごらん下さい。

### 5. シンポジウム：

「メソスケールの気象予測—展望と課題—」のテーマで、大会2日目（5月18日）午後開催の予定。

大会参加費の払込は、郵便振込による前納または当日受付によります。前納用の振込用紙は1月号に挿入します。スペシャル・セッションは行いません。

## 口頭発表の方法

### 1. 種別

次の2種類のどちらかを発表者が選択して申し込む。

- ・第1種講演<講演5分、質疑2分>：新しい研究成果の要点・概要等を発表する。
- ・第2種講演<講演10分、質疑5分>：よくまとまった段階の研究成果を発表し討論する。予稿は明確に構成記述され、必ず1章を設けて主張の明らかなまとめまたは結論が明記されたものでなければならない。講演企画委員会は予稿をチェックし、第1種に振り替えることがある。この場合、委員会は申込者に連絡する。

なお持ち時間は、申込総数によっては上記よりも短くなることあり得る。

### 2. 申込件数の制限

1人（連名の場合、同一講演者）で申し込める口頭発表は1件に限る。ただし、独立したテーマの研究に限り、第1種講演1件の追加は認める。

同一講演者による2件の類似したテーマの発表（「その1」「その2」あるいはこれに準ずる性格を持つもの）が申し込まれた場合には、その一方をポスターに振り替える。

## ポスター・セッションの方法

1. 概要紹介に引き続きポスターの前で説明を行う。概要紹介もポスター・セッションも第1日（5月17日）午後に行われる予定（講演数が多ければ他の日時にも行う）。
2. ポスター・セッションは30分～1時間でこの間は口頭発表は休憩とする。
3. 概要紹介は直前の口頭発表のセッション（4会場のいずれか一つを講演企画委員会で指定する）で講演者自身が行う。時間は1～2分でOHPまたはスライドを1枚だけ用いることができる。
4. ポスターは事務局の指定した場所に掲示する。な

お、掲示板に余裕があれば大会期間3日間を通じて掲示することもできる。

5. ポスターの掲示および撤去は講演者自身が行う。なお掲示に必要な鎮またはテープは事務局で用意する。
6. 掲示板は90cm(縦)×180cm(横)である。ただし、ポスターは大きな紙一枚に書く必要はない。例えば、B4サイズの紙に分けて描き、当日掲示板に並べてもよい。
7. ポスターには講演題目と講演者名を明記する。文字や図は2～3m離れても、はっきり分かるように書く。

## 講演予稿集原稿の書き方

大会発表を申し込む会員は、以下の要領で予稿集原稿を作成し、本号末の申込用紙とともに講演企画委員会へ送付して下さい。

1. 原稿枚数：1件1枚
2. 用紙：本号末の予稿用紙、またはB4判（他の判は不可）の白紙あるいは薄青色の方眼紙を使う。原稿はそのまま写真製版され、B5判に縮小して印刷される。
3. 記入方法：用紙に直接書くか、別の用紙に書かれた文書・図表を貼る。
4. インク：墨または濃い黒色インクを使う。ワードプロセッサのインクが薄い場合には、コピーしてから使用する（インクが薄いままだと、字がかすれたり、方眼紙の網目が浮き出たりする場合がある）。

### 5. 配置

#### 予稿用紙を使用する場合

1行目に標題を書く。標題が長ければ2行目も使う。

3行目に著者名と所属（勤務先等）を書く。所属はカッコに入れる。著者が複数の場合には講演者の左肩に\*をつける。必要に応じて4行目も使う。

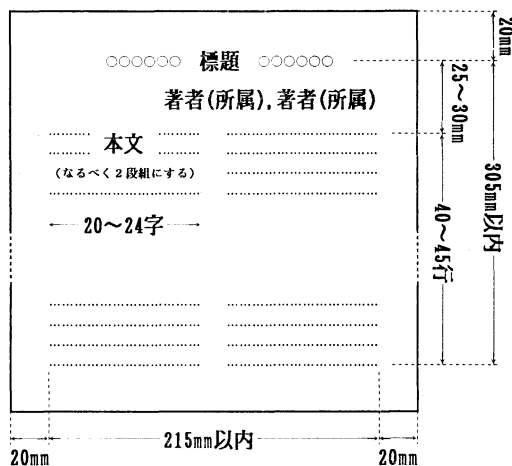
5行目以下に本文を書く。本文は2段組にし、左半分→右半分の順に書く。

#### B4判用紙を使用する場合（付図参照）

記載範囲は縦305mm以内×横215mm以内とし、上部には20mm程度の余白をとる。

予稿用紙の場合と同様、最上段に標題、その下に著者と所属を書き、本文をその下につける。標題から本文までの間隔は25～30mmとする。本文はなるべく2段組（左半分→右半分）にする。

その他の寸法や本文の字数・行数は、厳密に付図の通



B4判用紙による予稿集原稿の作成要領。

りでなくてもよい。

### 6. 図および表

墨または濃い黒色インクで、用紙の枠内の任意の箇所に直接描くか、白紙または薄青色方眼紙に描いて枠内に貼る。写真や図等には折り目が入らないようにする。階調のある写真はうまく出ません。

7. 著作権：予稿集に掲載された文章および図表の著作権は日本気象学会に帰属する。

8. 送付先・送付期限：申込用紙参照。なお、予稿集原稿を細かく折り畳まないで下さい（2つ折りは可）。

講演企画委員会では、予稿の多くがワードプロセッサで作られている現状を考え、現行の予稿用紙を近い将来に廃止することを検討しています。この点についてご意見等がありましたら、当委員会へお寄せ下さい。

## 講演企画委員会からのお知らせ——研究会活動への援助について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な援助をします。具体的には、大会プログラム等への掲載、講師を呼ぶ場合の報酬・交通費などの資金、会場・機器の手配、時間の調整などが考えられます。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画委員会へ申し込

んで下さい。

申込先・申込期限：一般講演と同じ

記入事項 1. 会の名称とテーマ

2. 代表者の連絡先

3. 希望日時・開催場所

4. 予想参加人数

5. 希望する支援内容

## 春季大会の予稿集の申込について

日本気象学会 事務局

〒100 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL 03-3212-8341 E 2546

FAX 03-3216-4401

1993年春季大会（東京）の予稿集（63号）の予約希望者は下記を記入のうえ葉書または FAX で学会事務局宛にお申し込みください。すでに定期購読されている会員は不要です。

### 記

- 1) 氏名（会員番号がわかる場合は会員番号も）
- 2) 送付先または所属（会員番号を記入した場合は省略してもよい）
- 3) 63号（春季大会予稿集）のみの場合；63号のみ  
63号以降定期購読の場合 ；63号以降定期

と記入してください。

注. \*印刷部数が限られているので、購読希望の方は予約購読をお勧めします。大会当日は売り切れとなることがあります。

\*従来の葉書折り込みは今回から止めました。

領布価格（円）	個人会員	団体会員
63号のみ	2,300	2,500
定期購読	2,000	2,200

予稿集の申込締切りは1993年4月27日（火）です。

## 第5回「メソ気象研究会」プログラム

日 時：1993年5月20日（木）9：30～15：00

場 所：気象庁第1会議室（5F）

テーマ：メソ天気系概念モデルを目指して  
—解析と数値実験の照合—

メソ気象研究会は、今や気象学会大会に併せて開催される恒例となりました。今度のテーマは、「メソ天気系概念モデル」です。この「メソ天気系概念モデル」とは耳慣れない言葉ではありますが、メソスケールの現象に対する知見を総合して日々の現象に適用できるように、予報部予報課をはじめ全国の予報担当官署がその開発に取り組んでいるものです。春季大会の主催が予報部ということもあって、これをテーマに採用しました。講演の内容には以前発表されたものも含まれますが、解析と数値実験の比較を中心に、理論的な裏付けにも言及しながら今後の「メソ天気系概念モデル」開発のあり方が見えてくるような討論ができればと期待しています。

コンビーナー：檜尾守昭（気象庁）・中村誠臣（気象庁）

<プログラム>

—座長：未定—

◎冬期日本海の帯状雲（9:30～10:40）

八木正允（気象庁観測部高層課）：解析と理論

永田 雅（気象研究所予報研究部）：モデリング

◎関東南海上の不連続線（10:50～12:00）

入田 央（気象庁予報部予報課）：解析

高野 功（気象研究所予報研究部）：数値実験

—昼食—

—座長：未定—

◎やまじ風（13:10～13:50）

斉藤和雄（気象研究所予報研究部）：数値実験

◎四国付近における寒冷前線のふるまい（13:50～14:30）

鷲田 治（高松地方気象台）：解析

総合討論（14:30～15:00）